

探究講座⑥「探究活動での研究倫理」

1. 本時の目標

- ・探究活動における研究倫理（改ざん・捏造・盗用、および生命倫理・プライバシー・危機管理）の重要性と具体的な規範を理解する。
- ・適切な引用の必要性を理解し、他者の成果を尊重する態度を養う。
- ・自らの探究活動において、倫理的に正しく、かつ科学的妥当性のある検証方法を計画できる。

2. 本講座で生徒に身につけて欲しいコンピテンシー

本講座では、まず研究者として守るべき倫理規範を自覚し、データの捏造や改ざん、盗用を排する誠実な態度を養う。また、プライバシー保護やインフォームド・コンセント、安全確保の重要性を理解し、実社会のルールに則った倫理的実践力を身につける。検証方法については、定量・定性調査の特性を理解し、平均値の罟を避ける統計的視点や、コーディングを用いた客観的な分析手法を習得する。これにより、科学的妥当性と倫理性を兼ね備えた質の高い探究活動を主体的に遂行する力を育む。

3. 本時の展開

探究講座⑥「探究活動での研究倫理」 2 時間目

時間	学習の内容	教材・留意点
0	出欠確認 授業者登壇 (O.T 先生)	
5	講義①：研究倫理の定義と不正行為の理解 ・研究倫理の定義： 仲間・道理・道筋といった言葉の意味から、人として守るべき道であることを確認する。 ・クイズによる三不正の理解： ①改ざん・捏造： おかしい数値を勝手に変えることの是非。都合よく嘘をつかない。 ②倫理違反： 自作石鹸の友人への試用を例に、生命倫理・プライバシー・安全確保（危機管理）を学ぶ。 ③盗用： 他者の文章の無断流用。適切な引用の必要性を理解する。 定性的アプローチの実践例（卒業生研究の解説）	スライド 単なる暗記ではなく、クイズ形式で「自分ならどうするか」を考えさせる
15	活動①：事例検討「高校生の夜更かしの実態調査」 ・不適切な調査事例の提示： LINE グループでの強制返信、実名公表、3 日間 1 時間睡眠の強要といったケースを提示する。 ・グループワーク： 事例のマズい点を最低 3 つ探す。 ・全体共有・解説： 匿名化（プライバシー）、インフォームド・コンセント（合意）、安全第一（危機管理）の 3 点を、本校の研究倫理規定（第 1 条）に照らして解説する。	本校研究倫理規定 生徒の身近なツール（LINE 等）での失敗例を扱うことで自分事化させる。

25	講義②：検証方法の使い分け（定量・定性調査） ・定義：数値データを用いる「定量」と、数値に表れない過程を探る「定性」の特徴を整理する。 ・「平均値の罠」の検討：クラス30人の平均値だけでは、深刻な依存状態（スマホ7時間、睡眠3時間）の生徒を見落とす危険性を理解する。 ・数学的解決：平均値だけでなく、散布図やヒストグラム等の代表値を用いる重要性を説く。	数学科での既習事項（データの活用）との接続を意識させる
35	活動②：定性分析の高度化「コーディング体験」 ・インタビューデータの提示：夜更かしするA～C君の「本音」を読み取る。 ・分析ステップの実践： STEP 1：発言から意味のあるパーツ（コード）を抜き出す。 STEP 2：パーツを心理的共通点でカテゴリー化する。 STEP 3：「リベンジ夜更かし」といった深い洞察に基づく結論を導く。 ・表面的な「アプリを消す」という解決策からの脱却を図る。	質的データ（声）を客観的なエビデンスへ昇華させるプロセスを体験させる。
45	まとめと振り返り ・本日の学びを、自身の探究テーマの「検証方法」にどう活かすか検討する。 ・Google Formによる授業アンケートの実施	Google Form アンケート

参考：本校研究倫理規定

(<https://www.gakugei-hs.setagaya.tokyo.jp/wp/wp-content/uploads/2025/06/b0df5fc6f57b543b25ce11d3219ad1a8.pdf>)